

# 水産研だより

## 【今回の内容】

- 1 コクチバス捕獲マニュアル
- 2 水産研究所バックヤードツアーを開催しました
- 3 イタセンパラの試験導入について



漁業協同組合による  
コクチバス捕獲の様子

## 1 コクチバス捕獲マニュアル

現在、岐阜県では、木曽三川で電気ショッカーボートを中心としたコクチバスの駆除を進めています。このショッカーボートの駆除効果は高い一方で、県内河川では川岸の状況等によってボートを降ろすことができない場所もあり、このような場所ではボートを使わずに、より簡便に、より効率よくコクチバスを駆除する方法が求められます。



電気ショッカーボート  
清流ガード1号

今までの調査で得られた、コクチバスの習性は、

- 河川の淵等、流れが緩やかな場所を好み、全長25cm程度を境に隠れ場所を好む性質から遊泳性に行動が変化する。
- 水温が15℃を超える5～6月頃、川岸の流れが緩やかな砂礫底（水深約1m）に産卵床を作って産卵し、オスが卵を守っているため、産卵床を発見しやすい。
- 警戒心が強く、学習能力も高いため、同じ捕獲方法を続けると捕れなくなる。

等がわかりました。

マニュアルではこれらの習性に基づき、産卵期から秋までの期間に刺し網や釣りといった手段でコクチバスを効率的に捕獲する方法を記載しています。

マニュアルは水産研のホームページ

<https://www.fish.rd.pref.gifu.lg.jp/gijutsu/kokutibasu/kokutibasu.htm>

に掲載されていますので皆様ご覧ください。

水産研究所では、電気ショッカーや船を使わない方法について、研究を進め、これまで得られた知見のもとに、現時点で最も効果的と考えられる捕獲方法をマニュアルにまとめました。

### 漁業協同組合員の力で外来魚ゼロへ！

#### コクチバス捕獲マニュアル



岐阜県水産研究所

コクチバス捕獲マニュアル

## 2 水産研究所バックヤードツアーを開催しました

平成27年(2025年)12月に世界農業遺産に認定された「清流長良川の鮎」は、令和7年で認定からちょうど10周年を迎えました。

この10周年を祝うイベントのひとつとして「次世代を担う若者の活躍シンポジウム」が令和7年12月15日(土)に世界淡水魚園水族館アクアトぎふで開催され、そのイベントの一環として、当研究所で「県水産研究所バックヤードツアー」を開催いたしました。

バックヤードツアーでは、日ごろ、一般の方では入ることのできない実験室や試験魚の飼育室を当研究所職員のガイドが案内し、魚病診断の様子や各種検査機器類、試験魚の生態や飼育管理に関すること、その他研究成果等について紹介しました。

ツアー参加者は37名、小学生から大人まで幅広い年齢構成の方々に参加いただきました。

ツアー参加者からは、水産研究所の概要や仕事の内容、県内に生息する魚に関する素朴な疑問や、研究内容や試験魚の生態など、様々なご質問を頂き、当研究所や県内に生息する魚類等への関心の高さを感じました。

(漁業研修部 武藤)



研究所ロビー



試験魚飼育室内

## 3 イタセンパラの試験導入について

イタセンパラは、国の天然記念物(文化財保護法)及び国内希少野生動植物(種の保存法)に指定されているコイ科の淡水魚です。岐阜県では木曽川水系のみで生息が確認されています。

本種は生息環境の悪化等に起因する絶滅の危機が増している状況にあり、個体数・生息域が減少傾向にあります。

当研究所は、環境省及び国土交通省が事務局を務める木曽川水系イタセンパラ保護協議会に参画し、生息域外保全(飼育・繁殖技術の確立)や普及啓発・環境教育に取り組んできました。この度、同協議会ではイタセンパラの生息地への再導入について、適切な手法・手順・実施体制等を確立させる必要があると判断し、令和7年7月、9月に木曽川水系において、当所で増殖させたイタセンパラの試験導入を行いました。木曽川では、平成30年10月に1度目の試験導入を実施しており、今回はそれに続く2度目の試みとなります。これまでに蓄積された知見を活かしつつ、さらに導入個体の定着や生息環境の改善状況も検証し、各関係機関と連携して、より効果的な保全手法の確立を目指します。



イタセンパラ



イタセンパラの試験導入

(試験研究部 荻谷)